English story telling contest

2019 in Kunigami

１５日(土)、羽地支所で国頭地区中学校英語ストーリーテリングコンテストが開催され、羽地中からＨ・Ａさん(１年)が出場し奨励賞をいただきました。Ｈさんのストーリーは「Falling For Rapunzel」(塔の上のラプンツェル)で、絵本を元にアレンジを加えた、少しユーモラスな内容でした。休憩時間中も家族と練習を繰り返し、本番では少し緊張しつつも堂々と発表していました。

コンテストにはALTのＫ・Ｒ先生も進行役として登場し、手慣れた英語で進行していました。会場には３６人の学校代表の中学生と保護者、学校関係者で賑わっていました。Ａさん、お疲れ様でした。

成長・貢献・感謝

羽地中学校
学校だより 49 号
R1. 6. 17

ケン・ロビンソン 学校教育は創造性を殺してしまっている

おはようございます。気分はいかがですか。素晴らしいですね。全てが驚嘆の連続です。だから、そろそろ帰ろうかと思って。（笑）

会議を通して、これまで私達は３つのテーマを取り上げてきました。どれも私が話したいことに関わっています。

一つ目は、人間の創造性について。ここにいる全ての人が持っている様々な形で現れる創造性とその幅の広さです。

二つ目は、創造性は未来に一体何が起こるかを予測不可能にしてしまいます。次に何が起こるかなんてさっぱり分からない。

私は教育に関心があると思いますが、例えば、ディナーパーティーの席で、あなたが教育関係の仕事をしていると言ったとします。教育関係で働いている人はあまりディナーパーティーにあまり誘われませんよね。

まったく誘われない。どうしてでしょうね。（笑）

でも、招待されて誰かと話すとします。「お仕事は？」と聞かれて、「教育関係の仕事です。」と答えると、彼らの顔から血の気が引くんです。

きっと、心の中で、（なんてこと！何で私の隣の席に、せっかくのパーティーなのに。）でも、あなたが彼らから受けた教育について聞いたら、熱心に話すでしょう。教育というのは深い問題ですからね。宗教やお金のことみたいに。

教育は、私たちを予測不可能な未来へと運んでくれます。

今年、小学校に入学する子供たちは、2065年に定年を迎えますが、TEDに集まるあらゆる分野のエキスパートをもってしても、５年先の世界ですら分かりません。それでも私たちは、未来に向かって彼らを教育する立場にある。予測不可能であることは大きなテーマです。

そして三つ目は、我々みんなが納得していること、つまり子供たちが持っている潜在的能力である独創力です。夕べのシリーナは驚愕でしたね。彼女を見ているだけで伝わってきたでしょう。彼女の才能は例外的なようで実はそうではない。子供はみな例外的な力を発揮できるからです。子供は自分の中に才能を発見すると没頭します。子供は誰もが比類ない才能をもっています。私たちは無情にもそれを無駄にしてしまっている。

創造性は識字能力と同じくらいに必要です。創造力と識字力は同等に扱うべきです。（拍手）ありがとう。私が言いたいことは、そういうことです。まだ、１５分も余っていますね。（笑）・・そう、私が生まれたのは・・いや違うな。

最近聞いたお気に入りの話をしましょう。

絵の教室に通う６歳の少女が、教室の後ろの方で絵を描いてました。少女はそれまで何も集中したことがなかった。